



# ヘルスケア歯科診療について藤木が伝えたいこと 2024

## ウステリアの誕生と私が使い続けている理由について



藤木省三（神戸市開業）

### その3 気になったことを確認できる！

毎日診療していると、これってどうなんだろう？ という疑問が湧いてくることはありませんか。 なにか気になるなと思ったときに調べることができるのがウステリアです。

#### 〈子どもの歯を守るためにはむし歯予防だけでいいのかな？〉

当院で子どものう蝕予防に取り組んである程度の実績が見えてきたころ、う蝕予防のほかに注意すべきことがあるのか気になって調べてみることにしました。

初診時の年齢が6歳以下の子どもを、定期健診に来ているグループ（グループA）とほとんど来ていないグループ（グループB）に分けて調べてみました（図1）。

2023年のヘルスケアミーティングで杉山精一副代表が言われていたように、平均値ではなく分布から大事なことがわかります。図2からはグループAの子どもはグループBの子どもと比較して新たなう蝕発症が極めて少ないことがわかります。

処置の内容を詳しく調べたのが図3です。う蝕の数だけでなく、デンタルX線写真でう窩と歯髄の距離が1mm以下の深部う蝕はグループBだけに認められます。う蝕による抜髄処置もグループAがゼロに対して、グループBでは4ケース認められます。このように、定期健診を受けるか受けないかで、う蝕の数だけでなく質も大きく異なることがわかりました。このような結果から当院のう蝕予防効果とその重要性が実感できました。

定期健診が効果があるのは当然として、このデータからさらに重要なことがわかりました。抜髄処置をした原因がう蝕によるものが4ケースに対して、中心結節の破折によるものが2ケースもありました。子どもの歯を守るためには、う蝕予防だけでは不十分であることをデータから知ることができました。

問題点がわかれば解決法を考える！ ですよ。早速、中心結節に関するプリントを作って、対応する年齢の子どもたちに配布して注意を促すようにしました。

#### 〈今回のまとめ〉

データをなぜ入れるのか？

それは、「知りたいことを知るため！」

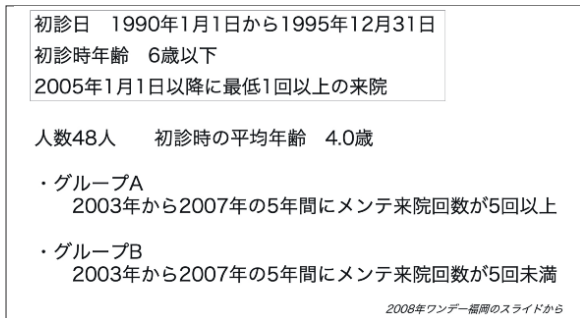


図 1

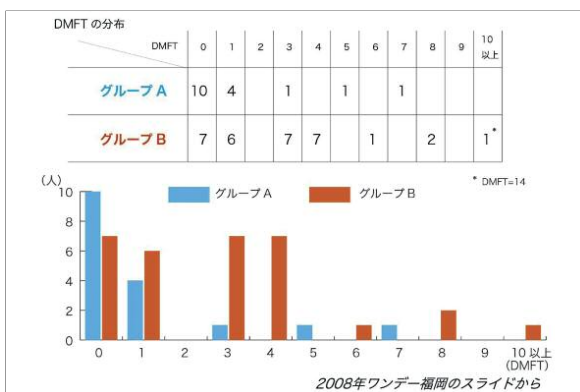


図 2

|       | 人数 | 初診時の平均年齢 | 現在の平均年齢 | 初診時DMFT | 現在DMFT | DMFTの増加 | *1 深部う蝕の数 | 抜髄処置の数 | 1年あたりのメンテ回数 |
|-------|----|----------|---------|---------|--------|---------|-----------|--------|-------------|
| 全員    | 48 | 4.0      | 19.1    | 0.4     | 2.3    | 1.9     | 9         | 8      | 0.7/年       |
| グループA | 17 | 3.9      | 17.9    | 0       | 1.1    | 1.1     | 0         | 1*     | 1.8/年       |
| グループB | 31 | 4.1      | 19.8    | 0.6     | 2.9    | 2.3     | 9         | 7*     | 0.2/年       |

\*1：デンタルレントゲン写真にてう窩の底部と歯髄との距離が概ね1mm以下の場合  
\*2：外傷による抜髄  
\*3：中心結節破折による抜髄2例と外傷による抜髄1例を含む

2008年ワンデー福岡のスライドから

図 3

問題点がわかった！

↓

次にやるべきことは、啓発用のプリントの作成

ちゅうしんけつせつ 中心結節について

レントゲンに写ったものが写っています。この結節での破折が必要です。

歯が生えてきたら、こんなに歯が死んでしまいます。

中心結節が折れてしまうと、神経が死んでしまいます。

神経に力が入ると、神経が死んでしまいます。

定期健診で早く見つけてあげると、神経を保存することができます。

神経が死んで、歯の寿命が長くなります。

中心結節は生ければ小学校3年生くらいから見られるようになります。早く見つけるために定期健診には必ず来て下さい。

図 4

